

## 5. 「まちなか縁側プロジェクト」

(芽室町・芽室町商店会連合会)

～ 賑わい創出に向け、空き店舗を町民に無料開放 ～

### ■ まちなか縁側プロジェクト始動

隣接する帯広市に複合ショッピングセンターや大型量販店の開業による購買力の流出、また商店経営者の高齢化に伴う廃業などを背景に、商店街内の空き店舗数が増加し、早期に対策を講じる必要があった。

平成26年に町内の商工業者や主婦14人で構成される「まちなか縁側プロジェクト」を立ち上げ、かつての賑わいを取り戻すべく、勉強会や視察を重ねた結果、空き店舗を町民に開放し、何が中心市街地に必要なかを聞き取り、課題を検証することとなった。

### ■ にぎわいの創出に向けた模索

旧衣料品店と携帯電話ショップだった空き店舗をそれぞれ「リビングcafé ENGAWA」

「マルチスペース縁側ひろば」として、オープンさせた。

「ENGAWA」は、20名ほど座れるテーブルやソファを備え、飲み物の自動販売機や無線LANを設置した上で、日中は自由に出入りでき、物販やイベントなどにも使えるようにし、誰もが気軽に立ち寄って休んだり、会話を楽しめる空間にした。



また、「縁側ひろば」は、会議やサークル活動などに予約制で貸し出し、ともに料金は無料とした。

実施してみると、「ENGAWA」では、銀行が近く商店街の中心に立地していることもあり、買い物ついでの休憩や学校帰りの小学生による勉強場所として利用されるほか、フリーWiFiの設置効果もあり、中学生や高校生など学生の姿も増えている。また、各種団体のイベントに活用され、スケジュールは月の半分以上は埋まっている状況。



### ■ 継続化への課題

町の予算で事業を実施しているところであるが、いつまでも当てにできない。将来的には、自立する上で、家賃や光熱費、人件費をどう捻出していくかが課題。まずは、利用者を増やしていかなければならないが、認知度向上に向けたPRが必要と考えている。

空き店舗対策としては、町内に限らず、町外からも起業者を誘致する必要がある。今回の取組を通し、武藤会長は、「少しでも空き店舗のシャッターをあげていきたい」と力強く語っていた。

照会先  
(運営主体等)

■ 芽室町商店会連合会  
芽室町東1条3丁目7番地  
TEL 0155-62-2230